

市民学コース 「行政と市民生活」講座

第1回 富士見市で 想定される大災害

～わが町の想定される
大災害とその取り組み～

講師 山田 好貴氏 市安心安全課

日時 8月24日（土）午後1時30分～3時30分

会場 水谷公民館 第3集会室

受講生 9名

今期は地震、洪水（内水）、土砂災害など身近に起こりうる災害対応のために
私たち市民のできることに、地域での備えについて、市の防災計画を学びながら体験できる講座内容を企画しました。

1部 富士見市で想定される災害

はじめに 日本は災害の多い国といえる。なぜなら世界のマグニチュード6以上の震源分布とプレート境界、火山の分布状況、日本の河川の分布状況から見て平成の主な自然災害の現況から多くの家屋、作物、人的被害を被っている歴史といえる。茨城県常総市の洪水、大阪北部地震など記憶に新しい。

○地震のメカニズム 種類は大きく分けて、①プレート型（海溝型）地震では関東大震災・東日本大震災・予想としては南海トラフ地震、②直下型（内陸型）地震では阪神、淡路大震災・新潟県中越地震・熊本地震・予想としては東京湾北部地震が平成30年までに起こる確率が70%ともいわれている。



富士見市で想定されている災害

地震 東京湾北部地震

水害 ①荒川などの河川決壊による洪水

②急なゲリラ豪雨等による都市型災害（内水被害）

土砂災害 大雨による土砂災害警戒区域市内 15 か所・特別警戒区域での土砂災害が崖近くの 12 か所

ここで富士見市防災ガイドブック（ハザードマップ）を参照

市では今年7月に地震・洪水（内水）・土砂災害を1冊にまとめた「富士市防災ガイドブック」を全戸配布した。東京湾北部地震は6強、南海トラフは5強の地震を想定。

近年の富士見市における災害

平成28年8月 台風28号で床上、床下浸水のあった山室地域、水谷東の高橋地域の写真、平成29年10月23日 台風21号で床上、床下浸水の現場写真を参照、平成28年の洪水時は25年ぶりに避難勧告が出された。

平成29年9月 台風24号では強風のため大きな看板が飛ばされ、市内2000件が停電被害。

2部 災害にどう備えるか

平成29年に富士見市地域防災計画の大幅な見直しを行った。

平成26年3月の旧計画都心計画と対比。28年、29年の水害の教訓を踏まえて水害対策編を独立構成。

- ① 被害想定
- ② 災害種別ごと指定避難所、指定緊急避難場所を指定し、現実的になった。
- ③ ペット動物・車中泊避難者の対応について記載

見直しの内容について

市民防災アンケートを実施に伴う計画の反映を図った。

- ① 市民が期待する市の備蓄の充実
- ② 市民のニーズに合わせた情報発信手段の確保

自助（60％）・共助（30％）・公助（10％） 自助・共助が大切！

- 自主防災組織（自主防災会）の結成
- 防災会への補助金交付
- 地域での防災訓練の実施

- 小学校区防災訓練の実施
- 富士見市防災リーダー養成講座の実施
- 地域防災計画等の各種計画・マニュアルの作成・普及啓発
外国人向け地域防災計画ガイドを作成
- 家具転倒防止器具取付け支援事業
- 家具の転倒防止

出前講座の人気メニューの紹介、災害対策カードゲームクロスロード、段ボールを使った間仕切り作成訓練（4回目の講座で予定している）

ローリングストック法——いつもより多く食材を買っておく。

食べた分（1日分ごととか）をその都度買い足し

いつでも一定のストックで備蓄ができている状態にする。

自発的な情報収集——①防災行政無線②市ホームページ③広報車④Lアラートを通じた、テレビ等の報道機関での広報⑤ツイッター・フェイスブックなどのSNS⑥防災メール・緊急速報メール⑦スマートフォンアプリ

避難情報の意味の確認 警戒レベルに応じた行動と避難情報等

水害時の避難の心得

増水した危険な場所に近かつかない、慌てず避難、安全確保で水位が膝下までの段階で早めの避難、避難所に行けない場合、建物の高いところへ垂直避難。

質疑応答

- ・公助の説明を 道路の整備、砂川掘りの工事などハード面については担当課に問い合わせを
- ・自主防災会について 防災リーダーとの共同はあるのか
- ・市全体での防災訓練の必要は 11月24日に実施予定
- ・鶴瀬地区の避難場所について

受講生の関心が高く、多くの質問が出されましたが、講師から丁寧な答えをいただきました。

改めて、手元の富士見市防災ガイドブック（地震・洪水内水・土砂災害ハザードマップ）を読み直し、活用の必要性を感じました。

